

## 日トルコ外相会談：共同記者発表での上川大臣発言

令和6年1月16日 21:53-22:08

- 本日は、エルドアン大統領、フィダン外務大臣を始めとするトルコ政府、そしてトルコ国民の皆様から大変温かく歓迎いただき、感謝申し上げます。日本とトルコの長年にわたる友好、信頼の絆を強く感じることができました。
- 両国は、地理的に遠くに位置しますが、1890年のエルトゥールル号遭難事件に端を発する長い交流の歴史を有しています。また、両国とも地震多発国ということもあり、トルコのことわざに言う「雨天の友」のように、困難な時も互いに支え合う関係を築いてきました。
- 直近でも、昨年2月にトルコで発生した大地震によって、5万人を越える多くの方が犠牲となり、日本政府として、被災者の方々に対する支援や被災地の復旧・復興を支援してきました。今般、能登半島地震に際して、エルドアン大統領及びフィダン大臣からお見舞いの言葉をいただき、トルコ政府からは支援の申し出もいただきました。心から感謝申し上げます。
- 本年は、日トルコ外交関係樹立100周年となります。その記念すべき年の初めに、ここアンカラを訪問し、エルドアン大統領、フィダン大臣とお会いすることができました。先週には、100周年記念のオープニング事業でもある第18回アンカラ日本映画祭が開催され、深澤外務大臣政務官が参加しました。

- 本日の外相会談においては、外交関係樹立100周年を迎えるこの大きなモメンタムを活用し、戦略的パートナーである日本とトルコとの関係を更に発展させることでフィダン大臣と一致しました。
- その上で、具体的な取組として、①様々な相互訪問や対話の枠組みの活性化、②日・トルコ経済連携協定（EPA）及び日・トルコ社会保障協定に係る交渉の早期妥結に向けた協議の加速化、③トルコ日本科学技術大学（TJU）の開学に向けた更なる協力、を確認しました。
- また、エネルギー、宇宙、防衛といった分野での協力、更には、中央アジア、アフリカなど第三国での日・トルコ企業の連携などについて、協力を推進していくことで一致しました。
- さらに、地域の安定に極めて重要な役割を果たしているトルコ、その外交の最前線に立つフィダン大臣との間で、地域情勢について有意義な議論ができました。
- 特に、ガザ地区における危機的な人道状況を一刻も早く改善すること、そして事態の早期沈静化に向けて、引き続き連携して取り組んでいくことを確認しました。また、ウクライナ情勢について、ロシアの侵略を一日も早く終わらせるべく、NATO場裏を含め引き続き協力していくことを確認するとともに、復興に関しても引き続き連携して対処していくことで一致しました。

●最後に、私（大臣）自身、印象深かったことに触れたいと思います。トルコは、若い人口が多く、女性の社会進出が進んだダイナミックな社会です。トルコは中東地域において最も日本語学習者が多く、その中心的役割を担うアンカラ大学を午前中に訪問しました。日本語や日本文化を学んでいる多くの学生とお会いして、そうしたダイナミズムを肌で感じることができました。

●両国の長年にわたる友好関係は、先人たちが積み上げてきた努力の賜ですが、その礎の上で、未来を担う若者がしっかりと育ち、目を輝かせて新たな挑戦に取り組んでいることを頼もしく思いました。日トルコ関係の未来は明るい、日本としてトルコとの間で一層幅広い協力を深めていきたい、そうした思いを新たにいたしました。

●ありがとうございました。

（了）